

クセになる。八尾の人、まち、自然、うまいもん

Yaomania

【ヤオマニア】Vol.21 2017年・秋号

Yaomania Vol.21 秋号 2017年10月16日発行 発行(社)八尾市観光協会 八尾市北本町2-1-1 ベントプラザ20号 ☎072-997-6226 編集 140B 定価0円 Printed in Japan

ザ・「八尾探」 秋の特選コース。

古民家で利みの恩智、住むを楽しむ久宝寺、
新名所が続々のJR八尾駅北側……

パン屋からはじまる街散策。

八尾東西横断の1日。

近鉄八尾駅前・
LINOASで小さな旅。



「ちょっといい」じぶんベーシック。



うれしい情報をLINEでお届け

LINE@

「検索」で登録してね!

ID検索で友だち登録 @LINOAS

QRコードから友だち登録▶



〒581-0803大阪府八尾市光町2-60

[お問い合わせ] TEL.072-990-0511

<http://www.linoas.jp>

リノアス

検索



この秋は「八尾再発見」の旅を。

自然も町並みも産業も歴史も、そして人の感じも町ごとにぜんぜん違うから、八尾では「ちょっとの移動」が時間旅行をしているような感じさをする。そして「あの町ってこんな感じ……」という先人観をホキッと折ってくれる場所や人も待っているから、歩いてみないと分からない。で、八尾探のススメ。

JR八尾駅北側 あたらしい 「人があつまる場」。

取材・文：西村由起子
写真：田村和成(喜楽亭)

VAOTAN
八尾探



1 どうです、この客入り。食うか食われるか、演者も客も油断できない距離感なのです 2 この日のチケットは2,000円で完売 3 中川氏のたつての願いで講談「船艦大和」を語る里見まさと。笑っていた観客の目にうつら涙も 4 落語を愛してやまない中川政雄氏の挨拶。満面の笑み 5 巧みな話術と迫真の演技、表情の桂文三「ちりとてちん」の一席 6 スーパーのアイオからも安中小学校からも行ける便利な立地



という、こんな柔軟なプログラムも大バコではない小屋の楽しみだ。
もう一つは「民泊ギャラリーNICO」。歴史、自然、グルメ……と遊び場には事欠かない八尾の街に不足していたのは宿泊施設。満を持して八尾初の民泊がこの秋オープンしたと聞いては「あたらしも好き」の八尾市民はほっとけないはず。周囲に美味しい人気店も多々あり、歩く楽しみは多い。

1 周囲は住宅街。人が集まる場所をつくり、町の活性化もめざす 2 オープニングでは、ボランティアチームによって沖縄民謡が奏でられた 3 意欲満々に「これから」を語るオーナーの多田羅さん 4 落ち着ける内装の色彩 5 ホテルというより、友達の家にお呼ばれした感じで泊まれる



プロが真剣勝負で競演する小屋。喜楽亭

この9月3日に行われた柿落し公演の舞台に立ったのは3組。芸歴25年のベテラン漫才師シンクタンクと、昨年「繁昌亭大賞」を受賞した落語家・桂文三。そして1980年代初頭の漫才ブームで一世を風靡したザ・ぼんちの里見まさと（講談）という豪華な顔ぶれ。まずは代表の中川政雄さんが「大好きな落語が楽しめる寄席を地元で作ったかった」と胸のうちの語り、その夢の実現を大いに支えたとして「まさと師匠は名誉席亭」と紹介した。演者たちの熱気、汗やツバまでも飛んできそうなるほどの距離感で体感する笑いの仕掛けの数々。楽しくないわけがない。今後も定期公演を予定していて、今回は「ピン芸人大会」とのこと。12月3日（日）14時から

●八尾市陽光園2-5-4
☎072-925-1201(オフィスなかがわ)

「泊まれる」古民家は八尾ならではのギャラリーNICO

八尾で建設関連会社を営む多田羅みづ代氏が空き家となった自らの実家をリフォームし、「素敵な人々が気軽に集い、宿泊も可能な施設」として再生させた。NICOとは母上の名前から命名。挿し絵をはじめ、オーナーにとっては思い出深い品々が各所に。1階はイベントや会合などにぴったりの多目的スペースで、宿泊は2階。会員制だが会費は不要、飲食の持ち込みは基本的に自由。外食店のケータリングなどを利用してホームパーティーを催しても楽しそう。ヨーロッパでは何百年も前の住まいや建物が大切に保存されているのに、日本はすぐに取り壊され、新築されてしまう。新しん好きもエエですけど、ちょっと残念」と多田羅氏。「今はシェアする時代。NICOもみなさんの別宅としてシェアしていただければ」。今後はジャズとワインのコラボ企画など、オープンイベントも実施予定。自分の企画でパーティーを開くのも面白い。

●八尾市南本町4-2-4
☎072-991-3507 宿泊は1棟4,500円〜

JR八尾駅北側の「寄り道」したい場所。

MOON CAFE

「喜楽亭」のご近所にある居心地のよいカフェ。4月のリニューアルオープン後、さらにメニューが充実。モーニングやランチで人気のハンバーガー、ホットドック、サンドイッチ類は人気の「ニューリーボン」のパンを使った自信作。夜にはのれんが替わり、おばんざいバル「りんご屋」としてオープンする。

●八尾市陽光園2-6-32
☎072-924-3515 7:00〜24:00



左/思わず足を止めてしまうかわいらしい外観。想像通りスタッフもみなご陽気。上/野菜たっぷりMOONサンドはサラダとスープが付いて800円。大口開けてダイナミックにほおぼるのが正解

はくせん 白扇

ダンも麺も余分なものは一切なし。昔ながらの製法にこだわる、手打ちうどんの老舗。名物の「カレーうどん」、しょうがととろみの利いた「けいらんうどん」。いずれも食べると体の芯から温まるので、特にこれからの季節におすすめだ。

●八尾市清水町2-1-27
☎072-993-3911 11:30〜14:30 L.O.
17:00〜20:30 L.O. 水曜休

右下/お店の代名詞、和牛カレーうどん950円。とろみと出汁のきいたあんがうどんによく絡み、つるつとした喉越しまでクセになる。左下/「さむ〜」と言いながら暖簾をくぐって鍋焼きうどんが食べたくまりました。グツグツ煮える音に具だくさん、心も体も大満足。1,550円



迎賓館に裁判所、神社、別荘まで。
大東家(非公開)

古民家の多い恩智の中で誰もが知る旧家。ひととき広大な敷地を誇る。現当主は15代目だが、古文書によると春日大社の社家の出に「大東延篤(おおひがしあつのぶ)」なる名前があり、その子孫ということであれば平安時代にまで遡る。江戸期に高安郡の各村の庄屋を取りまとめる大庄屋だった名残が随所に。まずはお白州。時代劇お奉行がお裁きを行うあの座敷だ。実際に「ご家老が馬に乗ってやって来られ」ていたそうで、駒つなぎの鉄の輪がそこかしこに。奥の本宅とは別に、客人(殿様も含む)をもてなす「表座敷」や文人墨客を招いて遊興するための別棟「十宜樓(じゅうぎろう)」があったり、広い庭園には空池に茶室に鳥居に春日大社ゆかりの神様も祀られていたり……と平成の世であることを忘れさせる。こんな家が恩智の「豊かさ」を支えてきたのだ。

●八尾市恩智中町5丁目



1空池の庭を隔てて左に迎賓館である表座敷の棟が 2この門が開いているところも初めて見ました 3この玄関左手にお白州があった。相談事、もめ事が持ち込まれ、「お裁き」がされた 4八尾には唯一かも。「キリシタン灯籠」 5階上から大阪湾などを眺めて遊び語らったという「十宜樓」

酒好きが「惚れ込む」品揃え。
乾酒店

新酒の季節を告げる杉玉と粋な暖簾が目印の白壁造りの酒販店。創業は明治維新直後の1869年。当時は家庭向けの酒販店だったのが、現社長(五代目)乾実さんの代で飲食店向けへと業態転換。全国の蔵元へ足を運んで縁を結び、付き合いも今や数百軒に。「味も大切ですが人も大切」と造り手の人柄や情熱も取引の決め手にする。人情の深さに、さすが恩智の人だなと感じ入った。

●八尾市恩智中町3-68
☎072-941-2118 10:00~18:00 日・祝休

1百貨店にないお酒も多く、遠方の酒好きも来店 2往時を偲ばせる看板。創業当時は谷酒造場から仕入れたいくつかの原酒をブレンドして「九桜(くざくら)」という自社ブランドとして発売。「乾の酒はうまい」と地元の人に愛された 3乾実社長(中央)とスタッフ。香港やシンガポール、オーストラリアをはじめ世界各地に輸出している 4押しは東北の地酒、宮城県の「伯楽星」と岩手県の「AKABU」。どちらも震災で倒壊した蔵を再建し見事復興



恩智の象徴
「九桜」は世界へ

乾酒店がかつて販売していたオリジナルブランド酒「九桜」。その由来は当地の郷土、恩智左近満一家の。左近と言えば、乾酒店とは目と鼻の先にある恩智神社の社家の出で、「やんちゃくれ」だったせいか神職には就かず、恩智城を築いて楠木正成「八臣」の一人となったことは有名だ(左近の出身や時代については諸説ある)。「九桜」と聞いて思い出すのが、早川織維工業(柏原市)が製造する世界的なブランド柔道衣。これに刻印されたロゴは「九桜」、もちろん左近の家紋に由来。同社の初代が恩智出身で、武将の雄々しいイメージにちなんだそうだ。

江戸時代から続く「発酵」の恵み。
マルゲン醤油醸造元

その名の通り醤油の製造から始まったが、やがて味噌、ポン酢なども生み出した。醤油も味噌も主原料の大豆と塩はほぼ同じ、余計なものは使わない。定番の「糀みそ」はたっぷり麹を使った甘めの味わい。冬場のみ限定生産の「特撰白みそ」はまもなく仕込みが完了し、お正月のお雑煮に重宝される。代々受け継がれてきた昔ながらの製法の実直さが伝わる味わいに、遠方のファンも多数。「研究熱心な先代は満足のいくポン酢ができるまで妥協知らず。目指したのは鍋物の付けダレとして薄まりにくく、伸びがいいもの。数か月の試作期間は、家族も同様に試作のポン酢で鍋をつつく毎日でした」と現社長の山本克也さん。某有名どころだけでなく、恩智にも名作ポン酢あり。

●八尾市恩智中町5-124 ☎072-943-7071
営業時間不定 不定休

1このディスプレイが商品の「信用」を物語る 2本誌17号でもご紹介した「糀みそ」500g648円。年末から正月にかけて大人気 3名作「味つけぽん酢」360ml576円を照れ気味にドヤ顔で持つ山本社長 4恩智神社参道を上れば、右手に。玄関先の控えめな看板が「お店」だと分かる



取材・文〓西村由起子 写真〓田村和成(乾酒店・マルゲン)

「温故知新」とはこの町のここと。
恩智 八尾探

恩智に行く度に、「布団太鼓が似合う町並みやなあ」と感心する。古民家がこれだけ集まっている風景は見事というしかない。でも、地元の人たちは「旧いものをただ守っている」のではなく、未来につなげるよう奮闘している。そんな場所を一つまたひとつめぐる。



要所の十字路に18世紀から建つ。
萩原家住宅

東高野街道と恩智街道の交差点にある築250年の古民家。当地で400年以上続く家は、現在の当主で19代目。古文書をたぐれば石田三成の子孫が興入れた事実もある旧家だ。かつて河内木綿が隆盛した頃には「茶屋吉兵衛」の屋号で木綿問屋・織元を営み、やがて織物工場「萩原織布」へと発展。屋敷の一角には郵便局まであった。

そんな往時の名残を留める希少な建造物を、老若男女が気楽に集える空間へと再生させる「茶吉庵プロジェクト」がはじまった。再生にあたり、古い蔵をさらってみると軽トラ6台分の古文書に暖簾、地機、高機、唐箕ほかの品々が続出。一部は八尾市に寄贈して整理整頓を進めた。今後は改装工事を行い、古民家カフェ、シェアオフィス、貸し農園などさまざまな企画を構想中だ。

●八尾市恩智中町3-1
☎072-928-5570(SORASIA)

1「茶屋吉兵衛」の暖簾も健在だ 2本誌15号(2016年夏号)表紙で描かれた萩原家。壊さず活かして生まれ変わるランドマーク 319代当主の萩原浩司さん(右)と茶吉庵プロジェクトリーダーの新井千春さん。当主は[宮脇書店柏原店]の名物店長 4大きな蔵の中は歴史の宝庫。数か月かけてやっと空っぽに

久宝寺駅〜久宝寺寺内町 初心者にも「住む楽しさ」が実感できた。

取材：文(一部写真) 中井咲穂(近畿大学4回生・久宝寺初訪問)



●「パーティーしよかあ」。1948年に東大阪で創業した「友安製作所」は、85年からはずっとこの地だ。元々はネジ製造からはじまったが、今ではカーテンや綿材加工品の製造・販売を主体に、ウォールステッカーやタイルなどDIYの商材も扱う。変化は学生時代をアメリカで過ごした代表(ボス)の友安啓嗣さんが2004年に入社した時から。自社ブランドの立ち上げやカフェ事業、輸入販売、ネットショップでの販売を開始するなど、新たな展開を次々と打ち出す。そんな中、冒頭のひとりで始まったのが、この3月に開催された「TOMOYASU春フェスタ」。誰でもウエルカムな入場無料のパーティーに2日間で700人が来場。簡単なDIYの体験や青空セーブル市、お菓子のつかみ取りなど、ゲストを楽しませる仕掛けが沢山で、地域とコミュニケーションできる場が誕生した。この秋は10月28日(土)・29日(日)。



●「そこが少し歩いて、寺内町へ。顕証寺近くの「八尾市まちなみセンター」は歴史遺産の継承と地域活動の拠点として設置された、寺内町めぐりの案内的存在だ。結構な確率で近所の子どもたちに会える。寺内町マップを広げ、「おいしいと、ない？」と聞いたら、「ここがええんちゃう？」。「最初はこっちゃろ！」とスタッフ顔負けの提案が。「子どもらの溜まり場よ」「冷房入れて、お茶ちょうだい、てなあ」と職員の川上さんと織田さんは笑う。「やんちゃ。ほんまに」。でもお二人、どこか嬉しそう。「あ、お茶飲みたい?」。もちろん訪問者にも優しい。センターを出て、広小路を進むと見えてくる2015年オープン。「Cafeもくれん」の黄色い壁。お薦めは、毎週月曜に四



万十川から届く無農薬栽培の野菜で作る日替わりランチ。元々は地域作業所が母体で、「一人ひとりが思い思いの時間を過ごして、だんだん心地よい交流が生まれれば」と代表の岡田猛さん。おしゃれで落ち着きのある店内には、子連れのママやランチ目当ての若者が集い、ほっこりとした時間が流れる。

●「ゆったり落ち着ける、お洒落な店内。」「黄色もチカチカしたきいろじゃなくて、ええ感じでしょ?」と岡田さん
●左から山田千尋さん、笹嶋望さん、山崎さん、代表の岡田さん。「みんな「まち」のことに積極的よね、意外と」「地域ネコが結構いて、それぞれが違う名前と呼んでかわいがってる」と寺内町トーク
●手作業で作られた雑貨や、四万十川から届いた野菜も販売
●野菜だけでなくお味噌やお米も四万十産。このヘルシーなランチがドリンク付きで600円とは!? 撮影を忘れ、バクバク平らげてしまった私に「もう1セットすぐ出せますよ!」と笹嶋さん

●店主の多葉早希さん。店頭で並ぶ人気のパウンドケーキや焼き菓子は100円〜350円と「寺内町プライス」。●2久宝寺ロールのケーキセット680円。コーヒーは同じ寺内町内にある某人気珈琲店のもの。期間限定の楽しいサプライズコラボだ
●3「お座敷のスペースで遊ばせておけるから、子ども連れてきてやすいです〜」「おもしろいねえ」と常連さん。「イベント、お祭りが意外と多いのも寺内町のおもしろいところかも」「自転車ですり内町の小さい店まわるのも楽しいですよ!」



●食後はスイーツを求めて「アトリエウフ」へ。大水路沿いの長屋古民家をリノベーションしたお店では、お菓子や雑貨の販売と、併設カフェでの喫茶が楽しめる。大阪の有名パティスリーで修業した店主の多葉早希さんのスイーツは、筆者も含めてファン続出。生まれも育ちも寺内町の彼女に、ここで住む楽しさ・楽しむ秘訣を聞いた。「オープンでいること、いられることじゃないかなあ。通学路でもあるので、帰りに駄菓子屋さん感覚で子どもたちが来てくれるし、常連さんの顔が見えるやうりとは心地いいですね。鍵かけ忘れてきちゃったが許されるような、そういう昔ながらの気質はなくなっほしくないなあと思います」

●友安製作所大阪本社ショールーム
●八尾市神武町1-36 ☎072-922-8789
9:00〜17:00 土・日・祝休

●八尾市まちなみセンター (寺内町ふれあいセンター)
●八尾市久宝寺3-3-20 ☎072-924-6371
9:00〜17:00 月曜休(祝日の場合は火曜休)

●Cafe もくれん
●八尾市久宝寺6-6-7 ☎072-968-9972
10:00〜15:00(野菜販売、手芸品販売は〜17:00)
日・祝休(水曜は販売のみ営業)

●オーダースイーツ アトリエウフ
●八尾市久宝寺3-8-25 ☎090-1028-1298
11:00〜18:00 日曜休・月曜不定休

ステンドグラスも久宝寺。

ステンドグラス教室「トゥギャザー」では「よくある一日体験みたいなものはやってないです」と岡本桂子先生。学べるのは本格的な作品づくり。ガラスを切る工程に始まり、銅のテープをガラスの切断面にぐるりと貼ったり、はんだ付けをしたり……と簡単なものでも約3週間、細かい作業を経てやっと出来上がる。「しょーもないもの作っても達成感ないし、おもしろくないでしょ?」。たしかに。

ガラスを切る体験に挑戦させてもらった。簡単な直線などは、ガラスカッターで表面に傷をつけ、勢い良く手でパキンと割るのだが、これがまたむずかしい。「おせんべい割る感じで!」先生の動作は簡単そうだったのに。「ビビったらあかんよ、勢いよく!」3回目で念願のパキン達成、作品のスゴさを思い知る。「思ったより良いものが必ず出来てしまうんですよ」。出来上がった時の生徒さんの達成感にあふれた顔が、何よりのやり甲斐。東大阪時代を合わせると24年もの間教室を続けてこられた理由だ。「自分が一生懸命作ったオリジナル作品を家に飾るのも住むを楽しむ、でしょ?」。外部での体験も一切行ってないため、受講希望者は直接教室にお訪ねを。自作で「住むを楽しむ、沼にどっぷりとハマってしまいうさだ……」。



●岡本桂子先生(中央)と作業中の生徒さん。「丁寧に教えてもらえるし、ここに集まっておしゃべりしながら楽しくできるのがいい」大阪市内から通う人も



●今年の「久宝寺燈路まつり」に出店されていた桂子先生の作品にため息



無印は「素敵生活の本屋さん」でもあった。
無印良品(5F)

売り場面積が約2倍になり、品揃えも拡充された。新カテゴリーとして目を惹くのが、MUJI BOOKSと珈琲カウンターだ。各売場の商品ジャンルに合わせた書籍の本棚が点在。「買い物を楽しむだけでなく、珈琲を飲みながら本を読むもよし、そこから暮らしのヒントを得るもよし。自由にくつろいでください」と今野貴宏店長。

10:00~20:00 ☎072-990-0021



1 百花ちゃんはすかさず絵本ゾーンへ。『なつみはなんにでもなれる』に好奇心をくすぐられた 2 体を動かすのが大好き、元気いっばいの巧真くんも絵本の前では読書家に変身 3 『いつも副業に悩む』という優子ママは『笠原将弘のさしすせそざい』に没頭 4 以前の6階から5階へ。広い店内には子どもが遊べる「木育広場」も



1 親子バンド結成か!? 初めてローランドの電子ドラムを叩いたとは思えぬノリノリ百花ちゃん。楽器に触れると、みんなええ表情です ※特別な許可を得て撮影しています 2 奥のスペースに防音の音楽教室が6室 3 CDなどの音源も充実。楽器はギター中心の品揃えに管弦楽器も加わった

「音に触れる」はこんなに身近だった。
銀座山野楽器(7F)

演奏したい曲や楽器をマンツーマンで指導してくれるアットホームな音楽教室は5年前に開設。今回のリノアス開業でさらに明るさと開放感が増した印象。「店に並んでいる楽器ならどれでも習っていただけますよ。ここにはない楽器でも取り寄せます!」と朝倉大輔店長。以前に感じた「敷居の高さ」は「銀座」ブランドに尻込みしていたせいかも。5歳から80歳まで、幅広い年齢層の生徒さんが音楽を楽しむために通う。

10:00~20:00 ☎072-925-3638

リノアスの旅人
金原優子さん
巧真くん 百花ちゃん

八尾市在住。小学4年生と1年生の「たまにケンカもするけど」仲の良い兄妹と、子どもたちに毎晩、絵本を読み聞かせる優しいお母さん。巧真くんの手にはいま流行のハンドスピナー、「回したら落ち着くねん」。百花ちゃんは二番目に好きな色のピンクでコーディネート。

取材文 西村由起子 写真 内池秀人

近鉄八尾駅前
家族で過ごしたい
リノアスで半日の「八尾探」。

八尾探



開店と正午、そして閉店の際には店内BGMとして河内家菊水丸さんの「リノアス音頭」が掛かる。ぜひ店内で聞きましょう♪

LINOAS(リノアス)

西武の退店以来、どこか寂しげだった駅前に再び火が灯った。新規店舗に【ニトリ】【しまむら】【Seria】も入ってます ●八尾市光町2-60 ☎072-990-0511



八尾の代表的
コスメ店でケアを。

家事に子育てに大忙しで自分のことは後回しになりがちママがいつも若々しく、キレイでいると子どもたちもうれしいもの。買い物の際に「ちょっとだけね」と、資生堂コスメがズラリと並ぶ3階の「かもじや」へ。子どもたちの「やってみて、やってみて」の勧めもあって、お肌の水分量や弾力などを調べる肌測定をすることに。期待したよりもちょっと低い値に驚く3人。お手入れの必要性を痛感した金原さんでした。

10:00~20:00 ☎072-997-1200



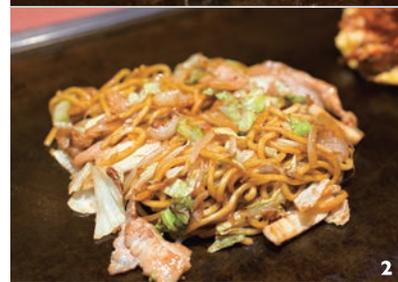
肌測定器を前にちょっと神秘的な顔の優子ママ。3階のど真ん中で2基のエスカレーターの間、立ち寄りやすい場所だ

ファミリーにも圧倒的人気の定番。
千房(8F)

昔から変わらない「お好み焼」の味とスタイルが、世代を超えて支持を集める。ジュージューと香ばしい音と香りに包まれて、目の前でお好み焼きが焼き上がるのを待つのも楽しいが、熱い鉄板は子連れにはちょっと心配。ここでは特に要望のない限りは、厨房で調理してくれるので安心。席間にも余裕があり、ベビーカーでも気兼ねしないのがうれしい。

11:00~21:15L.O. ☎072-997-8550

1 「千房でいちばん大きい」千房焼1,430円。牛に豚、有頭海老、タコ、イカが入った豪華さ 2 ちょっとり太めの麺に甘辛いソースがよく絡む、具だくさんの「ミックス焼そば」1,060円 3 焼き上がりを前に「わあおいそ〜」「お家のんより大きいなあ」「具がいっぱいや」三者三様の好反応。この後3人で「ごちそうさまでした!」





6世紀後半に造られた直径15mほどの俊徳丸鏡塚古墳。いつしか「俊徳丸」伝説にちなんだ場所に。大字大窪1175-14



水呑地蔵へ向かう道沿いにはお地蔵さんが迎えてくれる



水呑地蔵の生水は煮沸しないと飲めないが、ポリタンク持参の人は多い。大字神立

八尾探で1日

「ザ・八尾」東から西へ大横断。

YAOTAN 八尾探

「八尾に遊びに行くから案内して」と言われて「どこ連れてつたら……?」と頭をひねる。そんな時、八尾の地図を思い浮かべよう。東西10kmほどでもないのに、「国境」の山間部から下町まで、バラエティ豊かに景色が変わる。自然、スピリチュアル、リラクゼーション、グルメ、まち歩き……と八尾のサービス精神満開な日帰り旅をお届けします。

取材：文しきぎあこ 写真：MIKIKO

旅人 中井咲穂 (近畿大学4年生)



ようこそ、八尾のイタリアへ



おお！ 映画の五人衆。イタリア好きの上田さん(中央)はマフィアの格好で。現役のスポーツトレーナーで太極拳の達人だ。ネパール人スタッフ(左からラムさん、カンドルさん、サブユタさん、シャムさん)もフレンドリー



右/イタリアンランチのテラスセットは前菜、ナン、パスタ、ドルチェ、ドリンク付き1,800円 左/ネパールランチのエベレストセットはサラダ、カレー、ナン、タンドリーチキン、ドルチェ、ドリンク付き1,500円



レストランルーム。「チャオ!」という挨拶がよく似合う愉快的空間

スタツィオーネ

外環の新名所として人気。ぜひ予約してから。秋と初夏はテラス席も楽しい。
●八尾市西高安町2-8
☎072-999-0036
11:00~14:00、17:30~22:00
※いずれもL.O. 火曜休

豊温泉

自慢の軟水をペットボトルに詰めてお持ち帰りもできる人気の銭湯。
●八尾市北本町4-8-13
☎072-922-2738 15:00~23:30
毎月5・15・25日休 一般440円(サウナ込入浴料600円)



肌にやさしい軟水だからお肌美人になりそう

上/浴槽とヤシの木が醸し出すプチリゾート感は見逃さない 下/銭湯ドリンクも楽しみひとつ。みかん水(100円)はお風呂上がりにはやさしい甘さだ



八きち

赤いテントが目印。夜遅い時間にこの灯りを見るとホッとします。
●八尾市末広町4-8-20
☎072-990-3667
17:30~23:30 日・火曜休



下/久宝寺駅周辺はたこ焼き店が3軒の激戦区。「いつも出来立てを提供したい」と焼き具合にこだわる店主の千葉桂史さん。6個300円〜 左/店主自慢のたこ焼きを頬張る。スダレがいい感じ



肌が明るくなり、モチモチしてきた!

上/「うぶ毛を剃り落とすのは案外難しく、5~6年は修業しますよ」と三好さん。女性顔そり2,800円 下/優勝の文字がまぶしい。左から大野真弘さん、三好悦治さん、山下大地さん、今田裕久さん。若いスタッフは閉店後も日々レッスンに励む

理容 三好

腕の良さとスマートな接客が長年、地域のお客さんに愛されている。
●八尾市佐堂町3-1-A-1近鉄久宝寺駅1階 ☎072-998-7854
9:00~20:00 月曜&第2・3火曜休



幸せを感じる旅でした。八尾がもっと好きになりました

古墳、神社、そして大展望。

スタートは近鉄服部川駅。地場産業である造園の樹木が目に入る。街なかとは全く違う景色に感心しながら歩くと、最初の目的地「俊徳丸鏡塚古墳」へ。民家に隣接し、歴史遺産と「人びとの生活」の近さに驚かされる。高安山麓には500基以上の古墳がある超レアな界隈で、古墳は自由に入れて、気軽に「古代以前」を感じられるのだ。そこから民家の間の狭い道を登った先には「玉祖神社」が。境内から大阪平野がぐるりと望め、高安の里山風景を代表する神社。「自然をもっと満喫したい」と思ったらここから十三峠道の七曲りの急坂を登った「水呑地蔵」へもぜひ。途中、多数のお地蔵さんと出会うスピリチュアル体験は、ちよつと他の都市では味わえないだろう。

街道沿いの「名物駅」でランチ。

山から下りて訪れたのは、新しいレストラン「スタツィオーネ」。イタリア語で「駅」。敷地内には本物の線路と貨車が設置され、全体がテーマパーク風だ。トレーラーハウスを利用したレストランホールではイタリアとネパール、両方の料理が楽しめる。「僕が7年間住んでいた南イタリアの街を再現したんです。旅行気分を味わうレストランで八尾を盛り上げたい」と地元出身のオーナー・上田任志さん。イタリアでは農民が住む円錐形の屋根の家「アルペロベッロ」が広く快適なトイレになっている。

下町でリラククス&ご機嫌に。

お腹を満たしたらひとつ風呂浴びて湯上がりはのんびりと。八尾市内には15軒の銭湯と1軒の共同浴場が各地に点在するが、今回訪れたのは軟水風呂が自慢の「豊温泉」。銭湯ドリンクも飲んでさっぱりしたところで、さらなるリラクゼーションを求めて顔そりに「理容三好」へ。八尾は昔から理容業が盛んなまちで、久宝寺寺内町で理容店を父親と営んでいた三好悦治さんは競合を避けるため、近鉄久宝寺駅が高架になった1970年に独立して移転。その2年後に全国理容技術大会で優勝し、厚生労働省「現代の名工」として表彰されたプロ中のプロだ。「顔そりには不要な角質をとる美肌効果があります。化粧ノリが良くなるので、常連の女性客も多いですよ」その効果を実感したところで、たこ焼きとビールで乾杯して、旅の締めくくりを。久宝寺口駅からすぐのたこ焼き屋さん「八きち」は出汁の利いた生地と軟らかいタコが自慢の人気店。フーフハ、アツアツ、ビールが止まらない。酔い覚ましにすぐ南の長瀬川まで歩くと、そこはお隣の東大阪市。このせせらぎが中之島を通って海まで行くのかと思うと、不思議な気がする。大阪市内では絶対に味わえない八尾旅をぜひ。

「パン屋は街の入り口だ」アンコール

パン好きに捧げる「八尾探」。

YAOZAN 八尾探

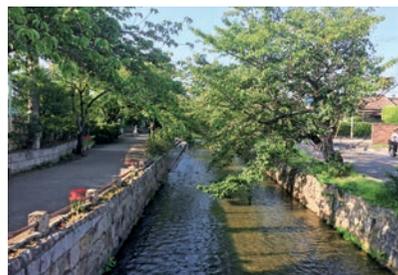
パンの名店が味を競う八尾のまち。風情を楽しむ小さな旅のお伴には美味しいパンが似合う。本誌の人気シリーズだった「パン屋は街の入り口」から、おすすすめの旅を紹介しします。

取材：文しきもあつこ 写真：内池秀人 MIKIKO(ミチコ)

せせらぎは小腹がすくんです。

玉串川のほとり

近鉄河内山本駅を挟んで南から北へ流れる玉串川。50年以上前、地元住民によって沿岸に桜が植樹されたことで川への関心が高まり、かつてのドブ川が桜の名所のせせらぎとして賑わうようになったのは有名な話だ。約1000本の桜並木は茜色に染まった紅葉シーズンも情感たっぷりなロマンチック気分が浸れる。水辺に近づける親水スポットが随所にあるので、物静かな秋景色に思いを馳せるのもいいだろう。



駅の北も南もどちらも歩きたくない道。こちらは南、山本球場の近く

ベーカリーコパン

玉串川の「高安駅前」交差点から西に歩いて1分、ヨーロッパのまちのパン屋をイメージした店は三角屋根が目印。店主がこだわるのは食パン。全部で15種という充実ぶりだ。菓子パンはなんと100種以上あり、午前中は目を回る忙しさだとか。
●八尾市中田2-38-5
☎072-995-0544
6:00～19:00 木曜休



新鮮野菜が自慢、食べ応え十分の「ツナサンドイッチ」310円



「一人で作っているので、時間差で種類の違うパンが並びますよ」

店主が惚れる製粉所の粒あんを使用した「滝さんの粒あんぱん」130円



ほんのり甘い味がいい感じ「しあわせのまるぱん」3個150円

コモモベーカリー

玉串川近くの山本南商店街に昨年オープン。子ども部屋のようなかわいいインテリアの店内は、最近増えつつあるショーケースでの対面販売が印象的だ。大阪市内の有名店で修業した店主が作るパンはちょっとおしゃれ。
●八尾市山本町南1-9-15
☎072-991-8686
10:00～19:00 日・月・火曜休



しっとりやわらか、ボリューム満点の「パンドプリン」130円



味に自信があります。安心して食べてください。

プッペ

うまいパンを追及したらイースト菌から天然酵母になってしまったという「プッペ」は玉串川から1本東の通り角にある。店内はアンパンマンのフィギュアが飾られ、アットホームな雰囲気。菓子パンは平均120円とお手頃価格なのでこれも食べたい。
●八尾市山本町1-5-11
☎072-997-1012
6:30～18:30 水曜休



バターたっぷり、食べだしたら止まらない「焦がしバターラスク」220円



お地藏さん、神社そして「植田家」。

植松町のまちなみ

JR八尾駅南側、歴史的なまちなみが残るこの一帯は1704年の大和川付け替えによって開発された安中新田のあったところ。そのシンボルともいえる会所屋敷の「旧植田家住宅」は当時を偲ぶ貴重な歴史的建造物として内部の見学ができる。植松町には古い町割りや寺院、幕末の私塾跡、道標が数多く残っているほか、まちを東西に横切る奈良街道を中心に建立された地藏堂の多さにも驚く。「植松七地藏」めぐりもぜひ。物部氏ゆかりの古社、渋川神社でほっと息しよう。



視界が利かない、曲がりくねった狭い道はクルマ泣かせだが歩くとなじむ。ぜひのんびりと

Une Noix

JR八尾駅から南へ徒歩5分、パリのパン屋をお手本にしたスタイリッシュさが目を惹くここは、パリジェンヌならぬ植松ジェンヌが喜ぶ人気店。フランスパンやクロワッサンはすべてフランス産の材料という徹底ぶり。
●八尾市植松町5-7-12
☎072-970-5522
平日8:00～19:00、土日祝7:30～17:00 木曜休



高級バターをふんだんに使用した「クロワッサン」168円



クリーム類とパイ生地を組み合わせて絶妙。ほっぺが落ちそうな「モンブラン」218円



国産小麦を程よいもっちり感のある菓子パン作りにも力を入れています



Yaomania the Voice

取材・文＝西村由起子
やすじ 前田康二さん
やおコミュニティ放送(株) 代表取締役

これまでこれからも「八尾のリアル」にとことん密着です。

1997年に市制50周年記念事業の一環として設立された「FMちやお」は、おかげさまでこの10月31日が設立20周年、来年の4月29日には開局20周年を迎えます。95年1月の阪神淡路大震災で、ライフラインもマスコミによる情報も大部分が遮断されるなか、地域に密着した情報を流し続けたコミュニティFMの有効性が注目され、全国的に開局の気運が高まった頃のことでした。平成不況の最中で、非常に厳しい経済環境でしたが、市内の事業所1件1件にお願いして回り、やっとの思いで1億円の資本金をかき集め、「79.2MHz」をいただいたと聞いています。府下6番目のコミュニティ放送局でした。累積赤字など、数々の苦難を乗り越えて続けてこられたのは、リスナーと株主のみなさまの支えと、諸先輩方のご尽力の賜物です。

まだまだ局の知名度は低く、市民の間に浸透したとは言えません。インターネットをはじめとする他媒体に押されがちなラジオですが、「音だけで伝えるからこそ想像が膨らむもしろさ」や「他の作業をしながら楽しめる」点はラジオにしかない魅力でしょう。ちやおが徹底した現場取材にこだわるのも、現場に行ったからこそ伝えられるリアルさが、リスナーの心に響くからです。先人の苦勞を無にしないためにも、なんとか創意工夫して発展させていきたいですね。うれしい知らせとしては、設立20周年の記念すべき年によりやく国の許可が下りて送信出力が20Wへと増力できたこと。これまで受信できなかったエリアでもFMちやおを聴いていただけるようになりました。

平素にお楽しみいただくのはもちろんのこと「いざというときにも、ちやお」。これからもどうぞよろしくお願いたします。



市職員時代にはまちづくりも担当。「八尾市まちなみセンター」や「パトロール八尾ファミリーロード」は思い出深き場所。久しぶりに寺内町や商店を探索して、「楠喜」さんなどで鍋をつつきながら一献、といきたいですね。



桑原さん(左)の夢は小学校の先生。音楽好きの子どもたちを増やしてくれそう。曙川南中の時からクラリネット担当の竹田さんは「社会人になったら自分で楽器を買って演奏を続けたい」とこちらも熱い。写真は歴代校長。明治28年(1895)創立、府立高校としては大阪で三番目に古い

市 内の至るところで吹奏楽が響き渡っている八尾。そんなまちの音楽風景をリードするのが学校の吹奏楽部員たちだ。大阪万博の翌年、関西大会2位に輝いた八尾高校吹奏楽部はその後廃部になり、長い空白を経て12年前に復活。現在1・2年生部員39人が土日も含めほぼ毎日練習に励む。オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラの音楽監督の宮川彬良さんが作曲した『吹奏情話、八尾』を八尾市内の団体で初めて演奏したのも彼ら。「荘厳というか堂々としてカッコいい曲。八尾らしいかどうかは別として(笑)。クラシックは遠い昔に

次世代ヤオマニアの顔②

府立八尾高等学校吹奏楽部で活動

桑原鈴果さん(高2)

竹田航遥さん(高2)

「老若男女が楽しめる音で地元を盛り上げたい」

作曲家が亡くなっている、曲への思いは想像するしかありませんが、レッスン時に宮川さんの思いをナマで聞けたのはよい経験でした」と竹田さん。南高安中学校のギターマンドリン部だった桑原さんは高校では吹奏楽と決めていた。「母がトランペットをやっていたので吹奏楽は身近な存在。もはやオトコっぽい楽器ではないですね」とは頼もしい。2人とも小さい頃からピアノを習っていて、八尾では楽器に慣れ親しむと吹奏楽に行きつく、という公式があるのかも。演奏会に向けて猛練習中だ。

取材文＝きむあつこ 写真＝西岡潔

八尾高校吹奏楽部出演の演奏会

●子供難民支援チャリティーコンサート 11/5(日)14:30開演、プリズムホール 八尾高吹奏楽部(ディズニーメドレーやJポップベスト)のほか、コーラス、ハンドベルの演奏も。特別ゲストにゴスペルシンガーのレーナ・マリア。SS席2,500円、S席2,200円、A席2,000円 ☎072-941-8500(阪井)

●Yaomania第22号は12月中旬発行

「楽しすぎる冬の夜」

発行＝一般社団法人八尾市観光協会
編集＝株式会社140B
表紙絵＝須飼秀和
デザイン＝山崎慎太郎
印刷＝図書印刷株式会社
※記事の情報は2017年9月28日時点のものです。

表紙「八尾・喜楽亭」

JR八尾駅の近くに寄席小屋が出来ました。場内は満員、開演前からすごい熱気です。有名な芸人さんが目の前で漫才や落語、講談を披露。客席との距離が近く、即興でのお客さんとの絡みはどこか温かく、小屋中が笑いで包まれます。言葉で何人も演じながら目の前に情景を映し出す話芸にも感動しました。足を運び、体感できる寄席の素晴らしさを味わってほしいですね。(須飼秀和)

すがい・ひでかず 1977年明石市出身。日本の原風景や人びとの営みに映る郷愁を描く。著書に『私だけのふるさと』(岩波書店)など。絵本『うなぎのうーちゃん大冒険』は台湾版も出版された。



上/2900人が一斉に同じ踊りを。壮観! 下/宮崎県延岡市の記録を124人上回る2872人で世界一! 夜の報道番組でも紹介



ヤオマニアの心ときめく2017秋カレンダー

※各会場のMAPはP13です。イベントの開催日時は変更になる場合もあります。詳しくは各施設へお問い合わせください。それ以外は八尾市観光協会まで。☎072-997-6226

10/17(火) やおの魅力セミナー「河内木綿」
●プリズムホール 19:00～20:30
☎072-997-6226(八尾市観光協会)

10/22(日) いきいき八尾環境フェスティバル
●アリオ八尾/大阪経済法科大学花岡キャンパス 10:00～16:00(～17:00のコーナーもあり)
☎072-983-5585(NPO法人グラウンドワーク八尾)

10/29(日) 第27回八尾市国際交流野遊祭
●南本町第一公園(南本町8-4-12)
→民族料理や唄と踊り、バザー、屋台もいっぱい
11:00～15:00 ☎072-993-7860(同実行委員会)

11/2(木) ノルディックウォークで久宝寺寺内町を探索!
●久宝寺緑地中地区スポーツハウス集合 10:00～12:00 参加費500円
☎072-992-2489(久宝寺緑地管理事務所)

11/10(金)～12(日) 第64回八尾市文化芸術芸能祭 作品展示・茶道の部
●プリズムホール 10:00～16:00
→「芸能部門」は11(土)と12(日)の2日間開催
☎072-924-3876(八尾市生涯学習センター)

11/11(土) 平成29年度 生駒・柏原花屏風ハイキング
●柏原市役所前大和川河川敷集合 8:30～12:00
☎072-994-1515(大阪府中部農と緑の総合事務所地域政策室)

11/18(土) 八尾ふるさと歴史楽校「ハイキング、恩智道から高安山へ(健脚向き)」
●近鉄恩智駅集合 9:30集合～15:00頃
☎080-5361-0667(坂上) 参加費200円(資料代・保険代)。小中学生無料

11/18(土) やお80"映画祭
●アリオ八尾4階MOVIX八尾(13:00～1階レッドコートでオープニング) →今年度のグランプリが決まる! 有料(前売り・当日券あり)
☎06-6206-3100(同事務局アール・プランニング)

11/19(日) 司法書士と考える、老後の安心・支援の輪
●プリズムホール4F研修室 13:00～16:00 定員60名 →基礎講座「知っておきたい成年後見制度について」講師=高野雅教(司法書士)
☎06-6745-7591(リーガルサポート大阪 河内)

11/19(日) #OTAIYA市 おたいやいちin顕証寺
●顕証寺 時間未定 ☎072-993-1144(顕証寺)

11/23(祝) 第29回八尾市中学校音楽祭
●プリズムホール 時間未定
☎072-924-5111(プリズムホール)

11/23(祝) 久宝寺こうえんマルシェ
●久宝寺緑地北地区 風の広場付近 10:00～16:00 ☎072-992-2489(久宝寺緑地管理事務所)

11.25(土)～12.3(日) OSK日本歌劇団公演「Dracula」
●大丸心斎橋劇場(大丸心斎橋店北館14F) →生まれも育ちも八尾の悠浦あやとさんが主演 ※公演時間と観劇料はOSKのHPかお電話で ☎06-6251-3091(OSK日本歌劇団)

●八尾市立歴史民俗資料館 11/27(月)まで 河内木綿～河内から近江、そして最上へへ →10/21(土)・22(日)は館内外で「河内木綿まつり」開催。特別展記念講演会として10/22(日)には「近江商人の流通網と河内木綿」、11/4(土)には「山形商人の上方取引」を開催
10/28(土) 近世古文書講座 →初級編10:30～12:00、中級編13:00～14:30
11/5(日) ファミリー体験講座「埴輪をつくろう!」
12/3(日) ファミリー体験講座「凧をつくろう!」 9:00～16:30入館 火曜休 一般300円、大・高150円 ☎072-941-3601

●今東光資料館 2018/3/11(日)まで 小説「弓削道鏡」より～道鏡がみつめた河内～ 10:00～17:00 月曜休 ☎072-993-3606

●安中新田会所跡旧植田家住宅 10/22(日)まで 最発見!「航空写真」に見る八尾 10/26(木)～12/24(日) 企画展～植田家に潜む「鳥」 11/1(水) 市内鉄道まち歩き～亀の瀬地すべり見学会 11/18(土) 植松灯笼の日(夜間開催) 11/25(土) 鳥類研究者・須川恒氏講演会「文化財の中の探鳥」 12/3(日) 旧家で愉しむ食事会 9:00～16:30入館 火曜・祝日の翌日休 一般250円、大・高120円 ☎072-992-5311

●八尾市立しおんじやま古墳学習館 11/11(土) 歴史講座「倭人の絵画・銅鐸絵画へのアプローチ」 14:00～15:00頃。定員30名、当日受付。参加費無料 9:00～17:00 火曜休 一般240円、大・高120円 ☎072-941-3114

八尾市観光協会の 2018年賀ハガキを発売!

本誌の表紙絵を第1号から描いている須飼秀和さんが八尾市観光協会の年賀ハガキを描き下ろしました、いよいよ11月1日から八尾市観光案内所ほかで発売されます。お楽しみに!

「八尾市太田かいわいは、昔からの街並みが残り、伝統や地域の絆を大切にす地域です。八尾の暮らしの中にある何げなくも温かい風景を描いてみました」(須飼秀和)

Document 2017.9.9 世界記録達成!の一員となった日。

取材文＝中井咲穂(近畿大学4年生)

待ちに待った9月9日。まさに運動会のような気持ちで、私たちはこの日を迎えた。「私たち」とは、前号で私と一緒に河内音頭講習会に参加した中学からの相棒と、みんなに「踊りといえよこの子や」と言わしめる私の幼なじみ、そして私の3人。浴衣を着、髪の毛をまとめてびしょと下駄を履いたら、いき八尾・久宝寺緑地へ。

17時になると整列がスタート……勇んで入場口を目指すのが、どこも長蛇の列。「ここ後ろ並んどうたら?」と列に引き入れてもらい、少しずつ順番に入る。「待つて、みーぎ・ひだり・みーぎは上げたまんまやんは?」最終確認をしていると、「違う、足はこう」近くにいた多くの「師匠」のご指導が。並んでる時間も練習練習。

日もすつかり暗くなり、やっと全員が入場。「じゃあ、本番です!」の言葉にぴりりと緊張感が。生の音楽に合わせ、2900人の手を叩く音が重なる。巡回するチエック係の自衛隊員を横目に、すまし顔で踊りに集中。無心、無心……と心で唱えながら美好家肇(みよしやはじめ)師匠の歌に合わせて体を動かしているうちにあつという間に終了。あ、終わるか……とあつけないようなすがすがしいような。一体となった輪の中にある喜びは、ギネス達成の喜びに勝るとも劣らない不思議な高揚感に満ちていた。